

科目名 (英語表記)	木質構造学特論 (Advanced Lecture on Timber Structures)						ポートフォリオ
学年・専攻	1年・建築学専攻	単位・期間	選択2単位・後期 (自己学習:60時間)				<学生が記入する上での注意事項>
担当教員	大岡 優	連絡先	建築学科棟2階 第4研究室	オフィスアワー	月曜日 16:20～	【授業計画の説明】 枠内に○か×かを記入すること。	
【授業目的】	軸組構法(在来構法・伝統構法)・枠組壁構法・木質プレハブ構法・大規模木造などの木質構造物を対象とし、使用材料の種類や特徴、建物の強度特性、耐震設計法などについて学習する。						【理解の度合】(記入例)ファラデーの法則、交流の発生についてはほぼ理解できたが、渦電流についてはあまり理解できなかった。
【履修上の注意】	例題などを解く際に電卓を使用する。						【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。(記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。
【事前に行う準備学習や自己学習】	建築材料、建築構造などの木材・木造建築に関連する科目について良く復習すること。						【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。
【達成目標】	1)建築材料としての木材の特徴を理解できる。 2)木質系材料の種類や力学特性を理解できる。 3)木質構造物の水平抵抗メカニズムおよび耐震設計法が理解できる。						ルーブリック評価の【自己評価】では、到達したレベルに○をすること。
学 習 到 達 目 標							<教員が記入する上での注意事項> 教員は、◎が付いているところだけを記入すること。
ルーブリック評価	理想的な到達レベルの目安 ( A )	標準的な到達レベルの目安 ( B )	未到達レベルの目安 ( C )				ルーブリック評価とは設定された到達目標の合否および到達レベル(到達度の程度)を示す基準です。
評価到達目標項目1	木質系材料の種類や特徴について、木材の組織構造や特性値を含めて説明できる。	木材の力学特性について、ヤング係数や強さ、密度などの特性値を含めて説明できる。	木造建築物に用いられている木材の樹種について、それぞれの特徴が理解できる。				【自己評価】 A ・ B ・ C
評価到達目標項目2	木造建築物の地震や風などの外力に抵抗するメカニズムを、構法別に説明できる。	木造建築物の構造要素について説明することができる。	木造建築物には使用材料や構法によって、いくつかの種類があることが理解できる。				【自己評価】 A ・ B ・ C
評価到達目標項目3	過去の地震被害などから、現状の設計法の課題などを考察することができる。	耐震設計法の具体的な計算ができる。	木造建築物の耐震設計法について、それぞれの特徴が理解できる。				【自己評価】 A ・ B ・ C
							【自己評価】 A ・ B ・ C
到 達 度 評 価 ( % )							
評価方法 指標と評価割合	定期試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品実技	その他	合計
総合評価割合	80		20				100
知識の基本的な理解	60		5				65
思考・推論・創造への適応力	20		10				30
汎用的技能							
態度・志向性(人間力)							
総合的な学習経験と創造的思考力			5				5
【教科書】	適宜、資料を配布する。						成績の評価方法について ・後期中間試験(40%)、学年末試験(40%)、レポート(20%)を総合して評価する。
【参考資料】	木質構造 杉山英男 編著 共立出版 978-4-320-07701-0 木質構造設計規準・同解説 日本建築学会 978-4-818-90569-6						評価基準について ・総合点60点以上を合格とする。
【学習・教育目標・サブ目標との対応】(低学年)							【JABEE基準との対応】
【学習・教育到達目標との対応】(高学年・専攻科)	(B)						(c),(d)

